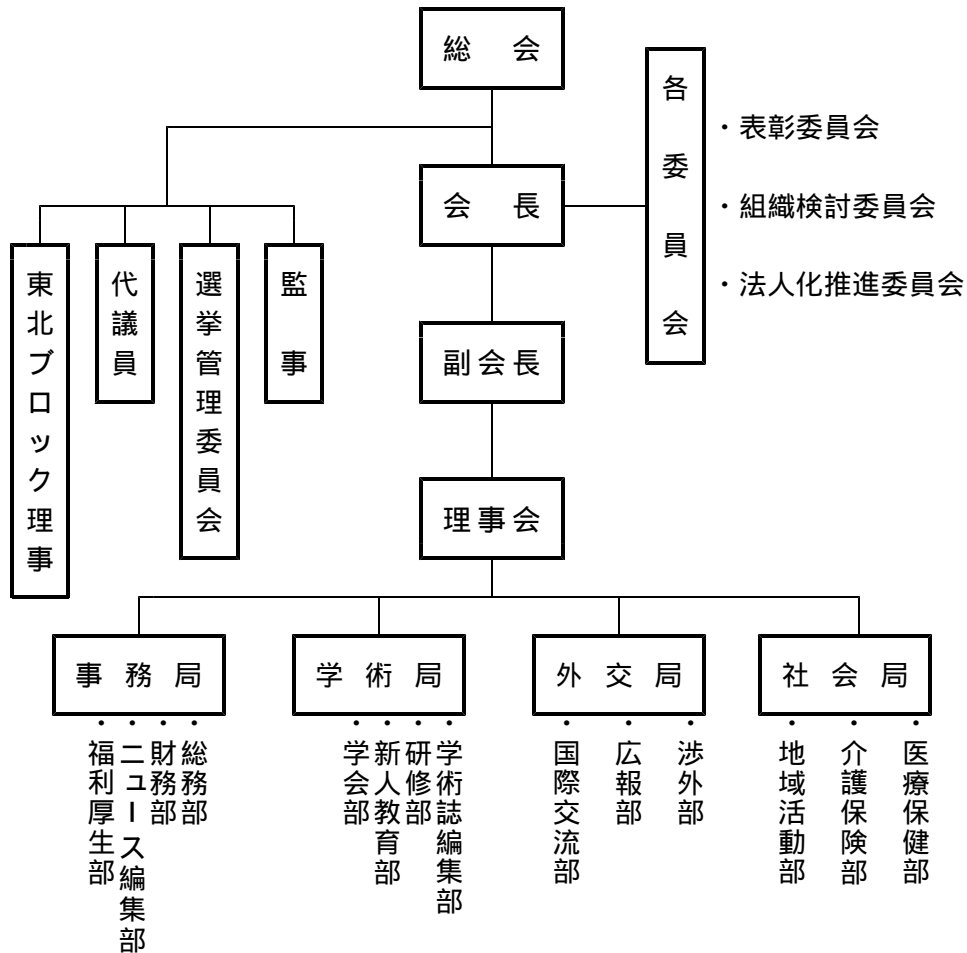




青森県理学療法士会組織図



役員配置

- |    |       |                            |
|----|-------|----------------------------|
| 会長 | 伊藤 和夫 |                            |
| 理事 | 相馬 光明 | 副会長、組織検討委員会、むつ下北ブロック担当     |
|    | 川口 徹  | 副会長、学術局担当                  |
|    | 後藤 明教 | 事務局長                       |
|    | 佐藤比呂子 | 事務局担当理事、中弘南黒ブロック担当         |
|    | 小村 博  | 外交局長、東青ブロック担当              |
|    | 山谷 光仁 | 外交局担当理事、上十三ブロック担当          |
|    | 中村 正直 | 社会局長                       |
|    | 澤田 隆憲 | 社会局担当理事、法人化推進委員会、西北五ブロック担当 |
|    | 村上三四郎 | 学術局長、三八ブロック担当              |
| 監事 | 三浦 時男 |                            |
|    | 山田 伸  |                            |

# 平成17年度第1回青森県理学療法士会理事会議事録要約

日時：平成17年5月7日（土）午後1時30分～4時30分

場所：東北メディカル学院

出席者：伊藤和夫、川口徹、相馬光明、中村正直、澤田隆憲、佐藤比呂子、村上三四郎、後藤明教  
三浦時男、山田伸、佐藤洋

案件：

## 報告事項

1. 事務局報告：新入会員は31名の予定、会員異動状況について報告。
2. 東北ブロック協議会理事会報告：ニュースNo.266報告  
東北ブロック協議会の事務局が青森県士会担当となる。

## 協議事項

1. 組織体制について：組織図参照  
・副会長に相馬光明氏、川口徹氏を選任した
2. 各部局事業について
  - 1) 事務局  
・事務局機能の円滑化：総務部員を増やし、会員管理や公文書管理を行う  
・財務業務が煩雑なので、各部局に会計担当を設置し、部局毎に出納帳を管理してもらい監査を上半期、下半期に分け2回行う方針である。  
・福利厚生部では、会員の親睦を図る事業を計画する。ブロック毎の開催も検討。
  - 2) 学術局  
・新人教育部：年間3～4回の研修会を開催予定。

- ・特別講習会：「心疾患に対する理学療法の位置づけと実際」（詳細は士会ニュースNo.266参照）
  - ・現職者講習会：「PNF臨床編」9月23～25日に開催予定
  - ・症例検討会を12月初旬に開催予定
  - ・第30回青森県理学療法士学会（学会長 尾田 敦）の準備
- 3) 社会局  
・医療保険部と介護保険部の2部制を設け対応を図る。  
・介護予防事業に関する研修会への対応を行う。
  - 4) 外交局  
・士会ホームページの充実と更新の回数を増やす。  
・国際交流部は韓国水原市との連絡調整を行う。
  - 5) その他  
・第29回青森県理学療法士学会収支決算報告  
・第30回県士会学会予算について：予算を前渡しする方向で考える。

# 平成17年度事業計画

## 【事務局事業計画】

事務局長：後藤明教

今年度の新入会員31名を加えると、士会員数も350人を数えるまでになり、事務局の業務も急激に増えてきました。士会事業が円滑に実施できるよう事務局機能を再考し充実を図り、また、会員相互の交流を図れるよう親睦会やスポーツ大会など福利厚生も活発に行いたいと思います。

総務部部長 佐藤比呂子（ときわ会病院）

- ・総務部員を増やし、会員異動届の管理、また、公文書等、各種文書の発行および管理を行う。
- ・ホームページ&メールでの情報提供を推進する。
- ・会員名簿の作成。
- ・郵送物については、メール便を有効活用する。  
財務部部長 佐藤洋（国立病院機構青森病院）
- ・全会員の会費の自動引き落としを推進
- ・予算執行を円滑に行えるよう各部局に会計担当をおき、出納帳を付けてもらう。

- ・会計監査は、上半期と下半期2回に分けて行ってもらう。  
ニュース編集部部长 梅村孝博（東北メディカル学院）
- ・ニュース編集部員を各ブロックに配置し、編集作業の効率化を目指す。
- ・ホームページへも士会ニュースを掲載。  
福利厚生部部长 藤田俊文（黎明郷リハビリテーション病院）
- ・新入会員歓迎会や情報交換会の実施
- ・各ブロック毎のスポーツ交流会（ボーリング大会等）の開催

## 【学術局事業計画】

学術局長：村上 三四郎

新人教育部：担当 中江秀幸（東北メディカル学院）

- ・3～4回の研修会開催を予定。うち1回は2日間程度集中で行う予定。案内については、随時ニュースまたはホームページに公開致しますのでご覧下さい。

研修部：担当 佐井川匠秀（芙蓉会病院）

- ・特別講習会

テーマ：「心疾患に対する理学療法の位置づけと実際」

講師：松永篤彦（北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科）

日時：平成17年7月23日（土）～24日（日）

会場：青森県立保健大学

- ・現職者講習会：テーマ 予定では「PNF-臨床編」9月23日（金、祝）～25日（日）
- ・青森県理学療法士会症例検討会：テーマは症例検討、12月初旬を予定
- ・スポーツ理学療法班：担当 小田桐愛（青森県立保健大学）研修会を1回開催予定、各種大会
- ・スポーツ現場でのサポート  
学術誌編集部：担当 土橋真由美（弘前大学）
- ・理学療法研究第23号の編集・発行  
学会部：担当 前野竜太郎（青森県立保健大学）
- ・第30回青森県理学療法士学会の準備  
学会長：尾田敦（弘前大学）
- ・研究協力係：担当 尾田敦（弘前大学）  
研究活動サポート体制の整備  
研究助成制度（助成総額10万円、1～2件）
- ・選考委員：川口徹、後藤明教、三浦雅史、長谷川至、村上三四郎

募集期間：平成17年4月1日～6月20日頃

選考期間：平成17年6月20日頃～30日

研究期間：平成17年7月1日～平成18年2月28日

収支報告書提出期限：平成18年2月28日

研究発表：第30回青森県理学療法士会（弘前地区）（平成18年3月）

論文投稿：理学療法研究第23号または第24号  
その他

- ・県士会員の研究業績をホームページで公開
- ・各種専門班設置に向けての準備
- ・各ブロック内の学術活動の強化（各ブロック担当学術局員）

東 青：須藤崇（青森県立あすなろ学園）、横岡淳也（芙蓉会病院）、菊池修一（あおもり協立病院）

中弘南黒：対馬新吾（ときわ会病院）、中村信也（黎明郷リハビリテーション病院）

西北五：館山智格（西北中央病院）

三八：長谷川至（なかざわスポーツクリニック）、工藤洋平（青森労災病院）

上十三：板井英樹（百石病院）、二本柳洋（三沢市立三沢病院）西向綾子（公立七戸病院）

むつ下北：濱谷求（むつ総合病院）

## 【外交局事業計画】

外交局長：小村 博

- 1) "いきいき理学療法"の発行
  - 2) 理学療法週間関連
    1. 小・中・高校生への啓蒙活動（病院・施設見学）
    2. 健康祭りへの参加  
弘前市、八戸市など
    3. スポーツ理学療法公開講座の開催  
テーマ・場所・講師など未定。
    4. ふれあい教室  
日時：平成17年7月27日（水）13:00～15:00  
場所：福祉公民館（八戸市中央公民館）  
参加者：65歳以上の一般市民150名  
テーマ：未定 講師：石橋積貢
    5. グッズの購入と配布  
ボールペンなどを健康祭りなどのイベントで配布する予定。
  - 3) ホームページ管理
  - 4) 国際交流：主として韓国との情報交換
- \* 以上大筋での事業予定です。みなさまにもいろいろとご協力を願う事になるかもしれません。よろしくお願ひします。

## 【社会局事業計画】

社会局長：中村正直

### 1. 組織

局長：中村正直（むつりハビリテーション病院）

医療保険部：部長 板井秀樹（百石病院）

部員 未定

介護保険部：部長 柿崎智子（青森ナーシングライフ）、

部員 工藤寛教（あおもり協立病院）、千葉 直（むつりハビリテーション病院）

地域活動部：部長 澤田隆憲（鯨ヶ沢病院）

部員 大沢由紀（青森慈恵会病院）、三浦時男（あかまつ園）、坪香織（むつりハビリテーション病院）

地域理学療法研究会：代表（仮）中村正直

社会局財務部：部長 浅田 恵（むつりハビリテーション病院）

### 2. 事業予定

#### 医療保険部

内容 医療保険制度に関する調査と報告

県内の医療に関する調査と報告

医療保険に対する窓口業務

医療に関する事業の計画と実行

#### 平成17年度事業予定

診療報酬改訂に関する情報収集、報告

窓口業務

#### 介護保険部

内容 福祉制度及び介護保険に関する調査と報告

県内の福祉及び介護保険に関する調査

#### と報告

介護報酬に対する窓口業務

福祉に関する事業の計画と実行

#### 平成17年度事業予定

介護報酬に関する情報収集と報告

窓口業務

#### 地域活動部

内容 保健・福祉に関する事業を計画

保健・福祉に関する資源の提供

保健・福祉に関する地域への貢献

地域リハビリテーションにたずさわる

会員の連携づくり、地域理学療法研究会と合同運営

#### 平成17年度事業計画

6月・10月介護予防研修会への会員派遣

派遣

10月介護保険関連研修会開催

地方自治体及び他方面からの理学療法

資源提供要請について検討と対応

#### 地域理学療法研究会

内容 会員の地域リハビリテーション及び地

域理学療法に関する知識やスキルの向

上を目的として研修会の開催や情報提

供の場を提供。また地域リハビリテー

ションに係わる会員の意見吸収の場と

する

#### 平成17年度事業予定

情報収集と連絡調整

各地域での保健・福祉に関する研修会

及び勉強会の開催

#### 社会局財務部

内容 会計業務と管理

# 新入会員の皆様へ

県士会会長 伊藤 和夫

先日、当士会の新入会員ガイダンスが行なわれ、また新しい仲間が増えました。再度、国試合格、入会おめでとうございます。今年は過去最高の31名の新入会となりました。全国的に年々士会員数も増えており、本県でも350名を超え、数年後には500名規模に達成いたします。まさに量の時代に突入しました。やがて必ずや質の評価が試されます。しかしながら、今でもPTのマンパワー不足、地域偏在化が言われています。先日もある会議の席上、県内の福祉施設関係者から同じような発言がありました。今年は、協会創立40周年になりますが、職域拡大とマンパワー不足解消は永年の課題でもあります。私自身の過去24年間を振り返ってみても、会員所属施設が医療機関以外にかなり拡大している感があります。この背景として考えられることは、まさしく医療制度や福祉制度が大きく左右しているということです。実際、介護保険制度は大きな影響を及ぼしました。いまその制度が一部また大きく変わろうとしています。介護予防やヘルスプロモーションなどが大きな話題となってきています。過去から将来とも、これらの制度は刻々と変化していくものと考えられます。今まさに本当の私たちの力量が問われてくるのではないのでしょうか。新人の皆様には、大きな視点で将来を見極めることも期待いたしております。

## 新入会員紹介（東青・むつ下北地区）

芙蓉会病院、青森県立保健大学大学院  
：富士縄 透

初めまして、青森県立保健大学を卒業し、同大学院の地域高齢者保健学領域に入学することになりました。神奈川県出身の富士縄透です。自分でもなぜかわかりませんが、青森県民になってしまいました。というわけで、「なんでわざわざ神奈川県から青森に来たのですか？」という質問はしないで下さい。現在、大学院で学びながら、非常勤として芙蓉会病院に勤務しております。研究に臨床にがんばっていきたいと思っておりますが、「将来は大学に残るの？それとも病院に勤めるの？」といった質問はしないで下さい。先の事はまったく考えておりません。「人生行きあたりばったり」で今まで生きてきました。これからもそのつもりです。こんな私ですが、ご指導よろしくお願ひします。

青森市民病院：平野 望

はじめまして。青森市民病院の新人PT、平野望です。

尊敬する人はアントニオ猪木、好きな言葉は『迷わず行けよ、行けばわかるさ』、人生のテーマは『ロックに生きる』です。私は青森市で産

まれ、青森市で青春を過ごし、県立保健大学で学んだ正真正銘の青森市民であります。実を申しますと、青森市民病院でこの世に生を受けたのであります。自分が産まれた所で働くことになるとは予想だにしていませんでした。恩返しするつもりで精一杯頑張りたいと思います。皆様、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

むつりハビリテーション病院：千葉 直

はじめまして。むつりハビリテーション病院の千葉直と申します。青森県立保健大学出身で、実家は青森市の22歳B型です。

この歳にして初めての一人暮らし。何でむつりに来たの？とよく言われますが、自分を取り巻く緒先輩方の熱意と使命感に燃えてこの地にやってきました。いざ住んでみると大自然とパチンコ屋に囲まれた快適な地域です。

実はむつりハ病院というところもスタッフがそろってからまだ一年目。わたしもこの病院とともに成長していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

むつりハビリテーション病院：坪 香織

はじめまして。むつりハビリテーション病院の坪香織です。理学療法士となり、4年目になります。弘前大学医療技術短期大学部を卒業し、岩手県の栃内第二病院で約3年間勤務しておりました。

これまで学生時代から一人暮らしを続けていたため、久しぶりに地元に戻ってきて親元で生活しておりますが、実家の良さを感じています。せっかく青森に戻ってきたのでいろいろな所に遊びに行きたいと思っています。

気づくと働き始めて4年目に突入し、1年が非常に早く感じるとともに不安も感じております。まだまだ知識も経験も不足しておりますので、青森で働くのは初めての私にご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

東通村診療所、東通村介護老人保健施設

「のはなしょうぶ」：氣仙 裕

この度、青森県士会でお世話になることになりました氣仙（きせん）と申します。3月まで茨城県の日立市にいましたが、今回、生まれ故郷であります東通村に帰って来ることになりました。茨城では日立製作所に入社し、急性期病院と老健で仕事をしてまいりました。PTとしては生活環境支援系の専門理学療法士として、ケアマネージャーとしては茨城県ケアマネジメントリーダーとして、また、県士会では理事として、いろいろと勉強させていただきました。青森県は生まれ故郷とはいえ、何も分からない状況にありますので、諸先輩の先生方をはじめ、若い先生方にもいろいろと教えて頂きながら新人のつもりで勉強させて頂きたいと思っております。また、お酒を飲む勉強もしたいので機会がありましたら是非誘って頂きたいと思っております。これからいろいろとお世話になると思いますが、ご指導の程、どうぞ宜しくお願い致します。

## 青森県理学療法士学会発表・日韓学術協定調印式を終えて

韓国水原市物理治療士会 金 容成氏

去る3月、三沢市で第29回青森県理学療法士学会が行われ、韓国水原市の物理治療士会代表の金 容成氏にもポスター発表をしていただきました。また、同日、日韓学術協定調印式が行われ学術交流の協定書が取り交わされました。その金 容成氏より県士会員ならびに新入会員へメッセージが届きましたのでお伝えします。ちなみに今年10月30日～11月2日の日程でアジアPT学会がソウルで開催されます。ソウルには青森から直行便がでていますので、参加されてみてはいかがでしょうか？

（国立病院機構青森病院 山口 美穂子）

学会に参加されていた方々、並びに役員の方々へ

皆様のおかげで無事に発表を終えることができ、とても感謝しています。

新人の皆さんへ

新入会員の皆様お祝い申し上げます。

## 新人ガイダンス印象記

平成17年5月7日（土）に東北メディカル学院で開催されました青森県理学療法士会新人ガイダンスに参加させていただきました。ガイダンスには多数の若い新人の方々が参加しており活気に溢れていました。私も「新人（=若者）」という言葉には抵抗を感じながら長谷川先生の「県士会の組織と機構」について拝聴させていただきました。途中自己紹介があり、会場のかなりの方々が「新人？」と疑問に思われたのではないかと思います。45歳の新人です。大学に入る前は交通誘導員をしていました。最近細かい字が見えにくく、物忘れも多く、体はあちこち「ガタ」がきていますが、気力だけは若者に負けないように頑張っています。

新人教育プログラムや生涯学習プログラムの研修会は、自己研鑽の場を提供してくれるところであり、一人職場の方にとっては貴重な意見交換の機会であると思いました。事務局の先生方に対しては、いろいろ快くアドバイスなどをしてくれそうな印象を抱き、学会などでの研究発表に対しての不安が軽減しました。

新人教育プログラムは、3年間で終了するとい

黎明郷リハビリテーション病院 木村 護郎  
うことですが順調に単位が修得できるかどうか不安です。特に症例検討は、最初の年で終了する新人が多いというのを聞き、なんとか発表できるようにと考えています。今後どのような研修会が開催されるのか楽しみです。最後に学術研修会にできるだけ多く参加し、新しい知識を吸収し、患者さんの治療にやくだてていきたいと考えております。

## 第1回青森県理学療法士会研修会印象記

国民健康保険百石病院 板井 英樹

平成17年5月8日『母の日』、東北メディカル学院にて行われた研修会に参加しました。テーマ3「自立生活支援における理学療法士の関わり」と題して、バイク事故による脊髄損傷の30代男性、脊髄膿瘍の女児の二事例を通し、人的環境及び住環境をも含んだ広義での環境面の整備支援の取り組みを丁寧に語って頂きました。様々な助言などを含んだ支援と提言があったので、いくつか印象が残ったものを紹介したいと思います。

事例 ...自宅復帰・社会復帰へ向けて  
1)入浴；バスボードを利用した前傾姿勢での入浴、入浴時の体温管理、緊急対策として扉を開けての入浴  
2)カートランスファー；実際の自家用車を計測し、訓練室でのシミュレート

3)環境整備の費用捻出；社会保障・生命保険の説明(損害保険料率算出機構の存在)  
4)職場復帰；肉体労働は困難だが、当人の資格による事業所側のメリット、事業所側への説得としてプレゼンテーション(今回発表して頂いたスライドも利用したとのこと)

事例 …普通小学校への進学

- 1) TOTO との連携；新築の小学校へのバリアフリートイレの構想、「子供だけの世界」特別視しない皆のトイレという空間設定
- 2) 車椅子業者；小学生の前で車椅子の調整メンテナンスを行い、関心をもってもらう
- 3) 母親；学校生活の不安のフォロー
- 4) 社会環境；事故の保障は少ないので普通学校での受け入れは一般的に消極的以上箇条書きにて記しましたが、クライアントのことを想い、密に関わることにより、ノーマライゼーションの理念に行き着くことを感じさせられました。私の職場においても環境整備支援について携わる場面があるため、共感させられる内容が多かったのですが、若年者・障害児がクライアントになることは経験的に殆どないため、そういった意味でも環境整備の深さを改めて感じさせられました。

5月7・8日、東北メディカル学院にて行われた、第1回青森県理学療法士会研修会に参加しました。国家試験に何とか合格し、初めての研修会でした。初日夜遅くまで様々なゲームのおかげで（R明脚病院のF田先生有難うございました）睡眠不足で臨んだ2日目でしたが、弘前大学附属病院の塚本先生、介護老人保健施設ハートランドの桜田先生の講演は、とても興味深く眠る間もありませんでした。

まず、塚本先生の「自立生活支援への理学療法士のかかわり」では、住宅改修、普通小学校就学といったように、病院の中だけではなく、より生活に密着した形で症例と関わっていると感じました。4月からの自分自身を振り返ってみると、自分自身のことと精一杯であり、患者さんの希望などしっかりと把握できていなかったように思いま

その日の第二部として、テーマ4「やる気を引き出すコミュニケーション」と題して、傾聴・共感を意識することによって、よりクライアントとの距離を縮めていくというコミュニケーションの基本などをグループで実践しました。

形だけの説明ではなく、インフォームドコンセントが十分に成される事、それによる理学療法のコンプライアンス向上が期待出来るということを提唱していたと思います。

講師の桜田先生がALSの患者、認知症の患者を通じた実体験を物語りに紹介されたことなどを含め、感情に訴えるものを感じました。

人間関係を考えると、对患者・利用者を思い浮かべがちですが、テーマ3で講話された塚本先生が述べられていたソフト環境とのネットワークづくりを円滑にしていく上でも、高めていかなければならないスキルであるとも考えます。

今回の研修会双方ともに、“自立”と“自律”のキーワードを掲示されていましたが、皆さんはこの二つのワードをどのように捉えましたでしょうか？

### 三沢市立三沢病院 原 悠子

す。視線を患者さんに向ける良いきっかけとなりました。

次に、桜田先生のコミュニケーションについてです。患者さんと接していく上で、コミュニケーションは必要不可欠であり、常々どうやってコミュニケーションをとればよいのか疑問でした。コミュニケーションは、単なる言葉のやり取りでなく、体の動きや視線をも含まれており、全身で行うものだと、身をもって知りました。

いつまで新人といってもらえるのか、しかし免許を取った以上は甘えてられないということを感じた研修会でした。現時点では自分自身に何が出来るのか分かりませんが、理学療法士として、また、人として、担当患者さんに全身で接していきけるよう頑張っていきたいです。)

## 新人歓迎会懇親会に参加して

新緑の頃、晴天が続いたゴールデンウィーク終盤の5月7日、私達平成17年度青森県理学療法士会新人は東北メディカル学院での研修会1日目を終え、学院に隣接するまきば温泉での懇親会に参加させていただきました。

懇親会では、多くの県士会の先生方が、五戸ならではの桜鍋などのお料理と共に温かく私達新人を迎えて下さいました。伊藤会長の温かい歓迎のご挨拶と共に始まった宴会では、まずは席の隣接する新人達同士、自己紹介や各々の勤務先での様子などを楽しく語り合いました。今後、共に県内で頑張っていく同士としてすぐに打ち解けていきました。

一通りお料理も進んだ頃、理学療法士としてのみならず社会人としてもほとんどが新人である私達の顔に、少々戸惑いの色が見え隠れし始めました。「ビールって手のついてないのを持ってくのかな。」「日本酒の先生にはどうすればいいのかな。」と、皆それぞれに新人社会人としての宴会場での作法に自信が持てずに右往左往してしまし

青森労災病院 乙供寿里

た。先生方の中には、そんな私達を察して下さいましたのかご自分から私達の所にお酒を持って回って下さった方もいて、自分たちの不甲斐無さを思い知らされると同時に温かいお気遣いに感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、たどたどしくもご挨拶にお伺いすると、それぞれの先生方は笑顔で気さくに迎えて下さり、私達の緊張も徐々にほぐれていきました。

宴も酣になった頃に余興が始まり、「あの鐘を鳴らすのはあなた」の音楽と共に浴衣にカツラ、頭に鐘を装着した桜田先生が登場しました。他にも楽しいクイズなど、会場は大いに盛り上がり、爆笑の嵐でした。

今回のこの懇親会では、青森県理学療法士会の先生方がとても温かく気さくで楽しい先生方ばかりであること、また、様々な話を通してとても尊敬できる先生方であることを実感しました。私達も今後先生方を見習って頑張りたいと思います。

温かい歓迎を本当に有難うございました。

## スペシャルオリンピックス長野ボランティア体験記<3>

青森県立あすなる学園 須藤 宗

### 【最終日：レセプション・パーティ】

最終日の28日は13時から業務が始まりましたが、夜のレセプション・パーティのため、少し早めの17時には全ての業務が終了しました。しかし、アスリートの列は時間を追う毎に増え続け、終了時刻になっても一向に途絶える気配がありません。なんとか受付を閉めることでスクリーニングに区切りをつけることができました。一方でFFクルーの中には、「全部終わった」という達成感や充実感に包まれていましたが、どこかしら「まだまだこれからなのに」といった寂寥感もあり、複雑な雰囲気が部屋の中に満ちていました。実際、この仲間とともにFFルームで過ごすのは最後であり、一緒に作り上げた空間にもう戻れないと思うと感慨も一入です。名刺やメルアドの交換、写真撮影など思い思いに最後の時間を過ごしていました。

S01とS0長野が主催して開かれたHAPのレセプション・パーティは各セクションのメンバーやボランティアとして参加した学生が一同に会し、歌あり踊りありオランダチームの飛び入りありと大盛況でした。世界各地からS0に参加するアスリートのために長野に集まり、今まで知らなかった人たちと時間と空間を共有して一つのものを作り上げる。そうした共同作業が、5日間という短い時間ではあったものの、一人一人の絆を強くし、最後のレセプション・パーティの家族的な雰囲気を醸し出しているように思えました。別れ際は誰もが寂しくなり、私たちがパーティ会場を出たのは、ほとんど誰もいなくなってしまうからとのことでした（二次会も当然出席。多国籍でどんちゃん騒ぎです）。

### 【S0に参加して】

さて、県士会ニュースということで、ボランティアチームの雰囲気をお伝えするような形でまとめました。理学療法に関連する実際の活動については、違う形でまとめたいと考えており、あえてこの体験記では省略させていただきました。しかし結果として全体の印象がぼやけてしまったのではないかと危惧しており、改めてお詫び申し上げます。

S0から2週間程経って、現在この稿を書き上げていますが、改めて振り返ると、様々なプレゼントをたくさんの人からもらって帰ってきたように思います。アスリートからは、自分の立てた目標に挑戦する勇気と達成する喜びを。HAPのボランティアからは、同じ目標に向かって自分のできることを少しずつ持ち寄って大きな力にすることを。そして、FFの仲間からは、主体的にお互いを補い高めあいながら、少しでもよりよいサポートを提供することを。確かに言葉の壁はありましたし、もっと巧く英語でのコミュニケーションがとれていれば、お互いの理学療法についてディスカッションを深められたのではないかと心残りがあります。ただ、このような機会に恵まれたおかげで、世界の理学療法に直接触れることができましたし、リハビリテーションやスポーツの可能性について新たな視点から学ぶことができました。世界には様々な文化があり、習慣があります。それでもスポーツに参加するというたった一つのことを通して、多くの人と結びつくことができるということを、そして、そのサポートの一端を理学療法が担っているということ、5日間という短い期間ではありましたが、S0は教えてくれたように思います。

# 上十三地区における地域リハビリ支援活動報告

国民健康保健百石病院 板井 英樹

昨今、肺呼吸機能疾患に代表される肺炎、COPD 等に罹患される在宅療養者、施設入所者が増え、かかりつけとして役割を担う医療機関においても、呼吸リハビリテーション分野におけるニーズが増しているかと思われます。そんな中、実際の場面において、どのように手技的な療法を実践したら良いか、戸惑っている方などの相談をも受けるために百石町その周辺を圏域とした5事業所の訪問看護師を中心とした講習会を企画しました。

4月27日『呼吸リハビリテーションの実技（呼吸介助と排痰）』と題して、三沢市立三沢病院の村上先生を講師に、講話と実技を交えて、約1時間30分と短い時間に感じられましたが、実施して頂きました。筋過緊張・呼吸苦を認識することによるリラクゼーション、呼気吸気を認識することによる口すぼめ呼吸、腹式呼吸、胸郭上部・下部の動きを認識することによる胸郭他動運動下側肺障害を認識することによる排痰を中心とした体位変換などを実践しました。

どのようなものか、興味的に参加した方も多く、包括的な呼吸リハビリの啓発としての意義もあったものと感じていますし、終了後も実技を確認していた参加者もいたことから、好評だったように思えます。また、このような機会を設定し、手技から自己体操に至る手順などを見直せるような支援が出来ればと感じています。

今回、ご協力して頂いた三沢市立病院の先生方、また、患者モデルとなって頂いた東北メディカル学院の学生には厚く御礼申し上げます。

## - おしらせ -

### 第2回青森県理学療法士会研修会

学術局長 村上三四郎

下記の要綱で第2回の研修会を開催いたします。ご多忙とは思いますが多くの会員の御参加をお待ちしております。

日時：平成17年7月10日(日) 9:30~14:30

会場：(社)公済会館 むつ市小川町1丁目1-5 むつ総合病院となり

内容：9:30 ~ 受付

10:00~11:30 テーマ1：「職業人としての心構え」

講師：大久留美子先生（むつ総合病院リハビリテーション科）

13:00~14:30 テーマ2：「理学療法関連事故から見た危機管理と判例解説(仮題)」

講師：岩月宏泰先生（青森県立保健大学健康科学部理学療法学科）



## 日本徒手の理学療法研究会第43回技術講習会

テーマ：関節運動学と関節モビライゼーション（上肢編）

日時：平成17年7月16日（土）～17日（日）

講師：宮本重範（札幌医科大学保健医療学部）

会場：篠田総合病院

参加費：会員12,000円 非会員15,000円

定員：40名

申し込み方法：往復はがきに必要事項を記入してください。

往復はがき表面；担当幹事、申し込み宛先

往復はがき裏面；研究会・講習会名 氏名 研究会会員番号 所属（勤務先・〒・勤務先住所・TEL/FAX） 経験年数（年目）

について...会員の方は番号、非会員の方は「非会員」と記入してください。

返信はがき表面；自分の連絡先住所・氏名

返信はがき裏面；白紙のままにしておいてください。

申し込み宛先・問い合わせ先：

〒990-0045 山形県山形市桜町2-68

篠田総合病院リハビリセンター

長沼 誠

TEL：023（623）1711（内線242） FAX：023（625）2440

## 青森県スポーツドクターの会・トレーナー部会研修会

「第4回全鍼大会IN古牧」との共催となります

主催 社団法人全日本鍼灸マッサージ師会

共催 青森県スポーツドクターの会・トレーナー部会

特別講演 「地域総合スポーツクラブとネットワークの拡大」

- ・地域総合スポーツクラブとは何か
- ・地域総合スポーツクラブの作り方
- ・選手、コーチ、スタッフ、トレーナー、地域住民の関わり方等

講師 馬場宏輝（日本体育協会 スポーツ指導者育成部指導者育成課アスレティックトレーナー担当）

日時 7月17日 13：40～15：30

場所 古牧温泉 鳳凰殿

青森県三沢市三沢駅南 TEL 0176 - 51 - 1111

参加費 無 料

単位認定 トレーナー部会の「関連領域研究会への参加」の単位となります。  
受講票をご持参下さい。

大会担当窓口連絡先 社団法人青森県鍼灸マッサージ師会 笹川隆人

〒031-0804 青森県八戸市青葉3-2-16

TEL 0178-22-0701 FAX 0178-22-0712

Mail [hari-hari@mve.biglobe.ne.jp](mailto:hari-hari@mve.biglobe.ne.jp)

## お詫びと訂正

学術局研修部 佐井川 匠秀

下記講習会日程につきましては、前号ニュース中に訂正版を差し替えしておりますが、「申込方法」中の昼食注文や情報交換会の日付等は今回再度訂正させて頂きました。既に参加申込をされている方も再度ご確認ください。会員の方々には何かとご迷惑をおかけしておりますが何卒よろしくお願い致します。

### 平成17年度 青森県理学療法士会特別講習会

学術局長 村上 三四郎  
研修部 佐井川 匠秀

- 記 -

テーマ：「心疾患に対する理学療法の位置づけと実際」  
日時：平成17年7月23日（土）～24日（日）  
会場：青森県立保健大学  
講師：松永 篤彦（北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科）  
参加費：3,000円（昼食代を別途徴収致（注文者のみ）します。500円程度）  
情報交換会費：3,000円程度（講師を交えて1日目終了後に予定しております。）  
定員：30名（要事前登録、先着順）  
申込方法：下記の必要事項を明記の上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。  
氏名（ふりがな） 所属先 所属先電話・FAX 経験年数（年目）  
昼食注文（7/23）の要・不要 情報交換会参加（7/23）の出欠  
申込先：（医）芙蓉会芙蓉会病院 理学療法室  
佐井川 匠秀  
TEL：017-738-2214 FAX：017-738-2249  
E-mail [fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp](mailto:fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp)  
（講習会に関するお問い合わせは上記連絡先で受付致します。）  
締切り：平成17年6月24日（金）

尚、この講習会は新人教育プログラム「理学療法の専門領域」及び生涯学習プログラムの単位認定対象となります。

## 「第4回 呼吸ケアセミナー」

主催：呼吸ケアセミナー実行委員会  
【日本呼吸ケアネットワーク：JRCN】

共催：チーム医療CE研究会

後援：日本呼吸管理学会

会場：宮城県・仙台国際センター

会期：2005年7月31日（日）

プログラム例：

A会場(大会議室 橘)2階：フィジカルアセスメント

9：30～12：25、13：30～16：25（午前と午後同一内容）

総合司会：金子教宏（亀田総合病院）

企画：岩本志津RPT、鶴澤吉宏RPT、押味由香RPT、南雲秀子RPT

呼吸器系のフィジカルアセスメント      肺機能とレントゲンのアセスメント

血液ガス酸素投与のアセスメント      人工呼吸器のアセスメント

B会場(大会議室 萩)2階：呼吸ケアのための教育 / スーパープレゼンテーション

アメリカ呼吸療法協会との連携（国際標準教育をめざして）

問い合わせ先

〒130-0013 東京都墨田区錦糸4-9-1 東京ビジネスデータ処理サービス(株)内

呼吸ケア事務局

FAX：03-5610-0440 e-mail：[contact@jrcn.net](mailto:contact@jrcn.net)

ホームページ [www.jrcn.net](http://www.jrcn.net) で呼吸ケアセミナーでの各種情報をお知らせいたします

## 平成17年度 青森県理学療法士会特別講習会

学術局長 村上 三四郎

研修部 佐井川 匠秀

恒例となっております、青森県士会担当の現職者講習会を下記の通り開催いたします。会員の皆様のご応募をお待ちしております。

尚、参加を希望される会員は6月末発刊予定の「理学療法学」掲載の「協会ニュースNo.235」を参照し、必要事項を記入の上往復ハガキにてお申込み下さい。

PNF - 臨床編 -

日時：平成17年9月23日（金）～25日（日）

講師：高橋 護（医療法人社団 芹沢病院）

会場：青森県立保健大学

受講費：20,000円（情報交換会費、昼食代を含む）

定員：20名（先着順）

申込先：〒030-0133 青森市雲谷字山吹93-1

（医）芙蓉会芙蓉会病院 理学療法室

佐井川 匠秀

TEL:017-738-2214 FAX:017-738-2249

E-mail: [fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp](mailto:fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp)

尚、宿泊の斡旋などは行っておりませんのであらかじめご了承下さい。

締 切：平成17年8月19日（金）

尚、この講習会は新人教育プログラム「理学療法の専門領域」及び生涯学習プログラムの単位認定（生涯学習プログラムは2単位）対象となります。

## ～ 理学療法士求人情報～

### 医療法人芙蓉会

職 種：理学療法士、作業療法士

勤務形態：常勤、非常勤

業務形態：訪問リハビリテーション業務

勤務時間：月～金 8:30～17:00

土（隔週） 8:30～12:30

その他：施設見学は随時受付しております。

訪問リハビリテーションに関心のある方、是非御連絡下さい。

問合せ先：青森市雲谷字山吹93-1

Tel:017-764-1815

医療法人芙蓉会 本部 事務局長 穴水明雄

### 財団法人鷹揚郷・腎研究所・弘前病院

募集職種：理学療法士 1名

待 遇：当院規定により優遇（詳細は面接にて）

問い合わせ先：財団法人鷹揚郷・腎研究所・弘前病院

〒036-8243 弘前市小沢字山崎90

TEL: (0172) 87-1221 FAX: (0172) 87-1228

担当者：事務長 中西 寿生

## 【財務部通信】

### 《16年度会費未納者へ》

4名ほど未納者がいますので、心当たりのある方は早めに振り込んで下さい。

### 《17年度会費納入について》

会費自動引き落とし者へ

平成17年度の自動引き落としが**5月27日(金)**に行われました。通帳で各自、確認をお願いします。引き落としされなかった方は下記に振り込みして下さい。

会費自動引き落とし以外者へ

会費納入方法は下記の通りです。

**士会費12,000円の振込先** 振込み手数料210円

みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013  
名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

**協会費11,000円の振込先** 振込み手数料120円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642  
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

**記入例** 〔平成17年度会費 1名分 佐藤洋 8692〕 協会会員番号  
と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい（昨年、連絡を下さった施設には入金を確認できれば送付します）。**また、どうしても6月15日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい（振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む）。連絡を下されば引き落としの申込書を送らせて頂きます。どうぞ御協力お願いします。**

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科  
佐藤 洋  
TEL 0172-62-4055(271)

## 【社会局通信】

### 社会局局員募集及び地域理学療法研究会会員募集

社会局では局員と地域理学療法研究会会員を募集します。ふるってご参加ください。これまで施設に勤務されている方や一人職場の方などは、独自に関連団体に帰属し情報収集を行ってきたものとおもいます。

社会局では理学療法士間での連携を深めるため地域理学療法研究会を発足します。皆さんと意見交換や情報提供をやって行きたいと思えます。また地域リハビリテーションの質的向上をはかってゆきたいと思えます。多くの方の参加をお待ちしております。

募集内容

会員の参加資格：現在のところ青森県内外の理学療法士としておきます。

募集人員：何人でも

募集期間：いつでも

申し込み先：〒035-0094 青森県むつ市桜木町13番1号  
むつリハビリテーション病院 リハビリ科 中村正直  
TEL:0175-24-1211 FAX: 0175-24-4820  
Email: [masnao@hi-net.ne.jp](mailto:masnao@hi-net.ne.jp)

申し込み方法：電話、FAX、Email、声かけ（いつでもどこでも）

## 【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成17年6月21日(火曜日)です。  
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に  
フロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

### § ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号 TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste\_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のもので、ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail: reimeipt@h7.dion.ne.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長：梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員：伴 久美子（黒石病院）

工藤 寛教（あおもり協立病院）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

加藤 義人（なかざわスポーツクリニック）

久保 稔（八戸整形外科クリニック）

外交局広報部（HP担当）：安田 友久（青森労災病院）

---

### 編集後記

寒暖の差が激しい毎日ですが、皆さん体調は大丈夫ですか？

私事ですが、GWに北海道に旅行してきました。地ビールを飲み続けた3日間はあるという間でした。「次は南へ行きたいなあ」と思っていますが、早速6/11から名古屋に研修へ向かう予定です。土日なので愛知万博の混雑を思うと少し憂鬱ですが、時間があれば足を運んでみようかと思えます。

今年は全国学会、全国研修会どちらも遠方で、本州最北端の青森県からの移動は大変ですね。なるべく近場で学会や研修会があれば・・・と願うこの頃です。 (文責：川口)

---

## 奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216 南津軽郡藤崎町榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp